

塾に習い事—放課後のがらんとした運動場見て、いつもむなしく思う。

ゲームセンターの前を通りかかると、子どもたちはゲーム機に向かっている。画面を見ると、ストリートファイターたちの殺し屋の格闘技。これでいいのだろうか？

今の子は

日の出日、日の入りを見たことがない43%。魚釣りをしたことがない37%。高い木に登ったことがない28%。外で火を燃やしたことがない24%。鳥やトンボを捕まえたことがない15%。これは昨年、国立那須甲子少年自然の家を利用した小中学生に対するアンケートの結果である。

また、年齢層の違う子ども同士や遊ぶことが少ない。釣竿など遊び道具を作ることができない。外で遊ぶ時間は1日平均1時間にも満たないという調査結果もある。

身につけたい力

本来、子どもたちは遊びの中で人とうまくかかわっていく力、危険を回避する力、欲求不満に耐える力、自発性、創造力、想像力、好奇心、夢やあこがれを抱く力などを身につけていく。

ところが

- ・どんな遊びをするときでも、さまざまな年代の子どもと一緒に遊んでいた、そして知らず知らずのうちに、年代の異なる子どもたちと交わることになり、年上の子どもと付き合う時の気遣いや年下の子どもと一緒にあれば面倒をみてることも自然に身につけていた。それが、いつしか同じ年齢の子ども、いわゆる同級生としか遊ばなくなった。

- ・子どもたちは一緒にいるが、かつてのような集団とは違って、そこには漫画やテレビゲームといったモノが介在し、生身の人間同士の触れ合いがあまり見られない。ただ家に集まってるだけ。

- ・一人遊びが多くなり集団でする遊びのレパートリーが減ったことや、遊ぶ時間がないこともあって、人間だけの約束ごとやあり方を学んでいない。

- ・たまには、けんかをして他人の痛みが分かり、後のおさまりの付け方も分かるようになればよいが、そういう経験をしていない。

- ・危険なことは親が先回りして、取り除いてしまうため、幼児期に体を動かして失敗した経験をしていない。

- ・文明の進歩は人間をどどん「こらえ性」のないものにしていく。

- ・手作りの遊びから買う遊び、大人達が与える遊びに変わったため、子どもたちが主体的に創造的に遊ぶ機会が減った。

- ・想像力を育む「ごっこ遊び」をしなくなってきた。

- ・好奇心をくすぐられ、夢を抱く力をわき立たせるような遊びの体験をしていない。

前述の身につけたい力をしっかり身につけずに成長してしまう

どうすればいい!?

では今の、子どもの生活文化を踏まえて、私たちはどのようにすればよいだろう。

- ・自由な時間を与える—習い事の押し付けはしない。存分に子どもが持てる能力、可能性が発揮できてこそ、子どもは本当に自由であるといえる。また、自由であってこそ、能力や可能性を広げ、開発し、発揮していくこともでき、またその中で子どもは生きていく力を高めていく。思いっきり遊ぶことが出来るように私たちはつないでいる手をほんの少しでもゆるめることが必要。

- ・自由に遊べる場所を与える—学校開放をする。子どもだけでなく地域住民にも開放し、地域のコミュニティゾーンとして活用する。プレーパークをつくる。大きな公園の一部を子どもたちに開放して、禁止事項をできるだけ取り払い、子どもたちに思い切り好きなことのやれるようにする。子どもが自由に遊べる状況をつくっていくためには、何かあったときに他の人に責任を負わせるのではなく、「自分の責任で」という精神が基本となる。・遊びを教える—学校が仲介しても良いと思う。伝承遊びを教える。今の子どもはほったらかしにしておくとどうも遊べない。ある程度の弾みをつけたら、うまくそっと大人が手を引く。

付け加えて

時代の流れから、コンピューター—必然的なものである。対人関係や自然と親しむという面から問題があるが、子どもたちが、創造性を発揮でき、夢や希望を膨らませることができる可能性として、とても大きな意味を持つと思われる。

まず、できることから始めたい。子ども達の遊びの復権に今こそ全力を尽くさなければならないのではないか。そのためには、遊びということに対しても、持っている偏見や先入観を改め、遊びの意義を再確認する必要がある。